

田無神社の辰の話。平成 26 年 9 月に東参道を整備した際に建立されました。また、毎月最初の辰の日は「初辰」といい「発達」につながることから商売繁盛、運氣隆昌に縁起が良い日とされております。題字の写真は、撫龍です。

紅葉台



新聞

第 113 号

2024 年

1 月 20 日

発行人：関谷 孝

辰年について

関 邦義

「文豪ナビ・芥川龍之介」
(新潮文庫による)



2024(令和6)年は「辰年」なので、「辰」と「龍(竜)」について取り上げてみたい。

まず、「辰」であるが、これは十二支や方角(東南東)・時間(午前8時頃)を言うときに用いるようだ。そして、動物の場合に「龍(竜)」の時をあてると

いうことのようなのである。十二支の中で、唯一架空の動物ながら四霊の一つで、大変縁起のよい動物だとされる。

「龍」と「竜」の違いだが、「龍」は旧字であるのに対し、「竜」は新字体で、当用漢字表に加えられたものである。したがって、現代の漢和辞典では、たいていの場合、「竜」で調べることになる。「画龍点睛」「龍頭蛇尾」「登龍門」等、みな「竜」で置き換えられる。司馬遼太郎に「竜馬がゆく」という作品があるが、本来は「龍馬がゆく」であろう。ただ、「恐竜」だけは「恐龍」となっているのを見たことがない。

まず、「龍」で思い出すのは芥川龍之介である。芥川が生まれたのは、明治25年3月1日で、なんと、この時の暦は辰年辰月辰日。スロットマシンなら大当たりといったところだ。もちろん、この「辰」にちなんで「龍之介」と名付けられたわけである。なお、岩波文庫等、時々「竜之介」となっているのを見かけるが、これは感心しない。人名であり、固有名詞であるからだ。「栄華」と「栄花」は同じ意味だが「華子」と「花子」は別人である。

もうひとつ、「龍」で思いつくのは漢王朝の始祖となった高祖劉邦だ。なんと、劉邦の本当のお父さんは龍なのである。次に引用するのは、冒頭部のお母さんが身ごもったときのもの。

「其の先(むかし)、劉媪(りゅうおう)嘗(かつ)て大澤の陂(ひ)に息(い)ひ、夢に神(しん)と遭(あ)ふ。是の時雷電して晦冥(かいめい)なり。太公往(ゆ)きて視れば、則(すなは)ち蛟龍(かうりょう)を其の上に見る。已にして身(はら)める有り。遂に高祖を産む。」(『史記』卷八・高祖本紀)

父親は太公といい、母親は劉媪というのだが、「その昔、母親の劉媪が大きな沢の堤防で仮眠している時に、夢の中で神と会った。この時、雷が鳴り稲妻が起こって、真っ暗になった。太公が行ってよく見ると、蛟龍がその上にいた。やがて劉媪は身ごもり、こうして高祖を産んだ」というのである。

この部分、高校生の頃、漢文の授業で教わって、彼女を龍に奪われた男の心境に思いを馳せたりして、なんだか複雑な気持ちになったものである。ちなみに、「龍顔」とは「天子の顔」のことだ。なお、司馬遼太郎に『項羽と劉邦』(新潮文庫)と言う作品があるので、この機会に一読してみたいか。



紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」の HP に公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。

梅干しの種が体内旅行

赤石 五郎

昨年(2021年)91歳で亡くなった兄が「俺が盲腸炎になったときには、スイカの種が入っていたそう」と言っていた。兄は20代の時の事だったか。とにかく神経質で、魚を食べるときには小骨を丁寧にみつけては、抜き取り、ほぐした身を食べていた。あれでは味も落ちたのではないかな。私の性格は反対で、イワシは頭から、さんまは頭だけ残して骨ごと全部食べる。硬くて食べられそうもなかったら後から出せばいい。そういう主義だ。ところが先日、寒干鰯でお茶漬けを食べたときに、10年前ほどに漬けた梅干しがあったのを思い出して、それを取り出し、一緒に食べることにした。梅干しは古いほどおいしい。10年も経って忘れていたから、さぞおいしいだろうと出してみたら、身がかなりひからびて種にくっついていて。種から身を剥がし取るに苦労したが、味は良い。種においしいエキスが染み込んでいようと、お茶漬けのご飯と一緒に口の中でしゃぶっていたら、舌が間違えたのでしょうか、ご飯と一緒に種を飲み込んでしまったのです。さあ、大変、スイカの種どころじゃない。梅干しの大きな種なのです。胃がびっくりしたことでしょう。小腸、大腸を通り抜けられますかね。もし小腸で引っかかってしまい、腹痛を起こし医療センターへ搬送され、手術が必要になったらどうしよう。あまりにもバカバカしいことなので、誰にも言えずに悩んでいました。家内にも言えずに心底悩んでいました。トイレにこっそり割り箸を置いておき、大便が出るたびにほぐしてみようかと考えましたが、うまくいきません。無駄な努力はやめ。



そうしたら、2日後に、出ました。梅干しの種が、ひょっこり浮いていました。いや、ほっとしましてね。心の重荷がいつぱんに取れました。種が、かなり窮屈な思いをしながら、小腸の中を、くまなく旅をし、腸内を視察してくれたことなのでしょう。大腸は

かなり太いから心配はありませんがね。

2022年8月27日

辰で有名な 田無神社

田無神社の主祭神は、級津彦命(しなつひこのみこと)・級戸辺命(しなとべのみこと)、大国主命であります。元寇の際に神風を吹かせ、日本の国土をお守りくださった靈験あらたかな神様であります。現在は五行思想に基づき本殿に級津彦命(しなつひこのみこと)・級戸辺命(しなとべのみこと)として金龍、境内各所に黒龍、白龍神、赤龍、青龍を配祀し五龍神として信仰されております。武蔵境よりひばりヶ丘行バス田無駅下車で15分。徒歩6分【写真は白龍】

